

8 たじまピーマンにおけるドリフト対策の取組

ねらいと成果

J A たじまでは水稲防除によるピーマンへの農薬飛散が新たな問題となっている。そこで、飛散防止対策として、障壁作物と障壁ネットの試験を行った結果、これらの有効性が期待された。

内 容

2006年5月22日に朝来市のピーマンほ場のあぜ際にソルゴーを幅30cmに散播した。草丈160cmに生育した7月26日に、隣接水稲に無人ヘリ防除が実施された。防除翌日、水稲に一番近い畝の株の上位果実1kgを採取して分析したが、農薬成分は検出されなかった。

寒冷しゃ等を張った高さ3mの遮へいネットを設置し、隣接する水稲栽培ほ場で粉剤を散布した。同様に分析した結果、農薬成分は検出されなかった。

今後の方針

J A たじまピーマン協議会は、ドリフト対策として、ソルゴー植栽と障壁ネットの設置を勧めることにした。

他のドリフト防止対策技術と組み合わせた体系を確立し、水稲農家の協力を得ながら、更なる活動を展開する。

吉川 玖仁子（和田山農業改良普及センター）
（問い合わせ先 電話：079-672-6886）



9 キク産地でのドリフト防止対策への取組

農薬飛散試験ほ設置の経緯

三木農業改良普及センター管内では、露地を中心に5月～12月まで輪ギク等が栽培されている。キクには様々な病害虫が発生し、定期的な防除が不可欠である。ポジティブリスト制の施行によって問題となる農薬飛散を検証するため、北播花卉普及委員会は露地ギクで感水紙を用いた農薬飛散試験を行った。

試験結果

平成18年8月17日、ほぼ無風の条件下のもと、風上から畝に沿って動噴で水を散布し、最終散布地点から風下畝方向1m～5m、途中の畝に直角方向0.5～5mに1m間隔に感水紙を置き、水滴の付着状況を調べた結果、風下・垂直方向とも3mを超えると飛散量はかなり減少することが分かった。しかし、5m離れた地点でも水滴の飛散は確認された。

生産者への情報提供

実証結果は、北播花卉普及委員会がニュースレターにまとめ、農薬散布時の注意点なども加え、管内切花生産農家へ情報提供した。また、研修会等でもテーマに取り上げ、農薬飛散防止を呼びかけた。

山盛 典子（三木農業改良普及センター）
（問い合わせ先 電話：0794-82-3164）

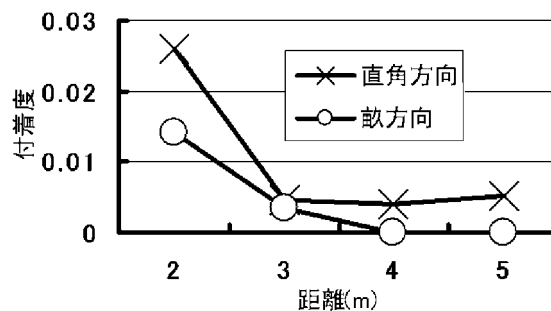


図 付着度と距離の関係